

樟葉有三尖、釣樟葉狹長、本草載天台烏藥、其根連珠氣極辛香、今藥肆稱括烏藥者是上品樟有大葉小葉二種、根味次烏藥、若無烏藥、則樟釣樟二根亦可代用、功能大抵相同、

按俗楠字訓久須乃木非也、楠自是別物、楠本作柁、杜子美艸堂前所栽柁與樟別物也、

〔重修本草綱目啓蒙二十三〕樟和名クスノキ鈔クス 一名柁品字香樟通雅

大木アリ、葉ハ天竺桂葉ニ似テ短ク、樟腦ノ氣アリ、互生シテ冬凋マズ、春新葉ヲ生ジテ、後舊葉落

ツ、夏月小花ヲ開ク、白色微黃、後小圓實ヲ結ブ、秋ニ至リ熟ジテ黒シ、用テ蠟ヲ採ル、コノ木中心赤

黒色ニシテ、香氣強キ者眞ノ樟ナリ、コレヲ煎ジテ樟腦ヲ採ルベシ、中心赤黒色ナラザル者ハイ

ヌクスト呼ブ、一名シロクス、豆州樟樹老タル者ハ木理美シ、コレヲ玉モクト云、又老樹火ヲ生ジ

自ラ燒ク、物理小識ニ、豫章老則出火、自焚不宜近家室ト云、先年城州八幡社外ノ老樟自ラ燒タリ、

是腦アル故ナリ、

〔牛馬問二〕楠ナシノ字、クスノキと訓ずるは誤り也、クスノキは樟ノ字也、

〔伊豆海島風土記下產物〕マタミ。樟ナルベシ、國地ノ玉クスト云ニ似テ木大ナリ、性モ楠ニ等シク、

板ニシテ船ヲ造ルニ久シクタモツ、皮ヲ煎ジテ衣ヲ染ルニ、トビ色トナル、八丈貢絹ノカバ色ト

云ハ、此ヲ以テ染ル、首夏ニ花咲、實ハ六月ニ熟ス、此實ヲ搗末シテ麥粉ニ交エ、土人糲トス、本草ニ

樟ハ楠ニ似テ夏細白花開ク、船ニ造ルトアリ、

〔增訂豆州志稿七〕樟クスノキ樟ハ氣甚芬烈以テ樟腦ヲ製ス可シ、一種嫩芽鮮紅ナルハ腦殊ニ多シ、

楠ニ二三ノ種類アリ、

増、共ニ久ク水濕ニ堪ルヲ以テ船材ト爲シ、又老樹ヲ以テ器具ヲ製ス、本草啓蒙ニ曰ク、豆州樟樹

之ヲ玉モト云ト州中樟楠ノ古樹多シ、然レドモ數百千年ヲ經タルハ樹幹朽腐シテ、其中空ヲ爲ス、宇佐

美村春日祠域ノ樟ハ、空處八席ヲ敷ク可シ、延寶中幕府此地ノ樟ヲ伐テ阿武丸ノ船材ト爲ス、今